

水沢農業高校 部活動に関する安全対策マニュアル

1 顧問がつけないときの指導について（会議等）

- (1) アップ、基礎メニュー、ドリル等危険が低いメニューのみとする。又、機械等を扱う練習、活動は禁止とする。
- (2) 不測の事態に備え、部員、マネージャーはスマホ等常に持参し、非常時の連絡先を確認しておく。会議中は事務室に緊急連絡を入れる。

2 熱中症対策について

- (1) 「予防対策温湿度計」の判定及び暑さ指数で活動の判断をする。
- (2) 各部水分補給用のドリンクを用意し、計画的に給水・休憩を取るように心がける。
- (3) 健康観察を行い、体調によっては活動参加を認めない。

3 落雷事故防止について

- (1) 雷活動度に応じて、以下の表のように活動日程、活動時間、活動場所を調整し、適切に対応する。

活動度	雷の状況		対応
4	激しい雷	落雷が多数発生している。	活動中止。避難指示。
3	やや激しい雷	落雷がある。	活動中止。避難指示。
2	雷あり	電光が見えたり雷鳴が聞こえたりする。 落雷の可能性が高くなっている。	活動一時中止。避難指示。 雷ナウキャストで1時間後の雷発生予想と、屋外の天候を確認しながら活動の判断を行う。
1	雷可能性あり	現在は雷は発生していないが、今後落雷の可能性はある。	雷ナウキャストで1時間後の雷発生予想と、屋外の天候を確認しながら活動の判断を行う。

【表 雷の活動度と雷の状況に応じた対応】

- (2) 本校「危機管理マニュアル」の対応に準ずる。

4 冬季期間の活動について

- (1) 原則屋外での危険を伴う練習を避ける。
- (2) 転倒事故を防ぐため、凍結した通路への屋根の設置、または、凍結防止策を要望し続けることとする。

5 各部の安全対策マニュアル

(1) 陸上競技部

予想される危険	事故防止対策
・投擲種目の事故によるもの ・他の部活動によるもの	・顧問がつけない場合はネットが二重・三重に安全対策がなされたサークルのみでの投擲とし、ハンマーは絶対に投げないこととする。 ・投擲の練習曜日・時間を決める。 ・投擲動作に入る前に「ハンマーいきます」等、大きな声で周囲に伝え、周囲の生徒は復唱する。 ・陸上部顧問が、グラウンド内で活動する部に伝え、この時間帯の練習は周辺に立ち入らない。 ・サッカー部はボール拾いに行く場合は「入ります」と大きな声で知らせるよう徹底する。 ・陸上部トラック部門はトラックを走らない。

(2) 馬術部

予想される危険	事故防止対策
・騎乗中や馬の世話等をする際によるもの ・学校、競馬場間の移動に関するもの	・騎乗するときは必ず、ヘルメット・安全ベストを着用すること。 ・馬房からの出し入れや馬装の装着、手入れなどは必ず複数人で携わること。 ・馬の特性を常に考慮し、馬を不安にさせない立ち位置や声かけなど注意しながら作業すること。 ・手綱やリードロープを手に巻き付けたり、地面を引きずらせたりしないこと。 ・学校から練習場への自転車移動は、ヘルメットを着用し、道路交通法を守り安全運転を徹底すること。

(3) ボクシング部

予想される危険	事故防止対策
・対戦練習時によるもの ・設備・施設によるもの	・マสบクシング、スパーリングを行う時はヘッドギア・マウスピースを着用し必ず指導者がいる時に行う。 ・ウエイト機器を使用する時は補助する人がいる時に行う。

(4) あぐりカルチャー班

予想される危険	事故防止対策
・活動時によるもの	・活動する前に、活動場所、活動内容を明確にしてから活動を行うこと。 ・指導する職員が不在で活動内容を把握できない場合は、活動しないこと。

(5) 自転車競技部

予想される危険	事故防止対策
・自転車乗車にかかわるもの ・個人の体調によるもの	○ ロード練習 ・自転車の点検を行ってから乗車する（ヘッドライトと反射鏡を設置） ・乗車の時はヘルメットを必ず着用する ・敷地外や練習コースを走行する場合、顧問が伴走する（選手だけでコースに出ない） ・体調が悪いとき等コンディションが良くない場合絶対に自転車に乗らない ・交通ルールを守って走行する（安全確認の徹底） ・他人に自転車を貸さない（第三者のケガの防止のため） ○ 競技場（トラック）での練習 ・競技場の走行ルールを守って走行する ・注意力が散漫なときは一旦自転車を降りて休息する ・競技用の自転車を整備するとき、車輪やギヤが回転していないことを確認する ・乗車の際ヘルメットを着用する ・体調が悪いとき等コンディションが良くない場合絶対に自転車に乗らない

(6) サッカー部

予想される危険	事故防止対策
・設備・施設によるもの ・他の部活動によるもの	・グラウンド整備を徹底する。 ・事故につながる石やガラスは除去する。 ・ゴールの破損等を定期的に確認する。 ・ゴールを運ぶ際は複数人で行い、脚に落とすような事故につながらないように配慮する。ゴールにぶら下がるなどの危険行為はしない。ゴールネットが正しく設置されているかを点検する。 ・陸上部等、グラウンドで活動する部活との事故に充分配慮する。ボール拾いに陸上部活動場所へ行くときは「入ります」と大きな声で知らせる。

(7) 卓球部

予想される危険	事故防止対策
・設備・施設によるもの ・練習によるもの	・卓球台を移動、設置、片付けをする際は必ず二人以上で行う。 ・卓球台の間隔を多めにとり、プレーヤー同士の接触事故を防ぐよう心がける。 ・練習中も足下のスリップ事故をなくすため、モップがけを行う。

(8) バドミントン部

予想される危険	事故防止対策
・施設・設備によるもの ・練習によるもの シャトルやラケットが目にあたる等	・練習中も足下のスリップ事故をなくすため、モップがけを行う。 ・ダブルスプレー中の接触事故等を防ぐため、普段から位置の確認を徹底する。 ・スマッシュ等の早い球を打つときはプレーヤーも含め周囲の安全に注意する。 ・声を掛け合いながら、危険回避する。 ・シャトルを拾う際は、プレー中の選手に近寄らない。

(9) 総合運動部

予想される危険	事故防止対策
・活動によるもの	・各部の安全対策マニュアルを元に事故防止に努める。 ・本校の部活にない競技を行う際には、各競技の安全対策を調べ事故の内容に行動する。

(10) 民族舞踊班

予想される危険	事故防止対策
・施設・設備によるもの	・物品の安全性を常に点検する。

(11)共通・ウエイトトレーニング

予想される危険	事故防止対策
・練習場所の未整理、安全具の未装備（プレートの左右のバランス確認、プレートが落下しないように留め具でしっかりと固定されているか、ベルトやシューズ、バンテージなど必要な安全具が装着されているか）。 ・用具の破損や器具の整備不良。 ・個々の能力以上による練習、誤ったフォームによる練習。 ・十分な準備運動を怠り、基礎基本の習得が不足。 ・周囲の安全確認、選手同士の声掛け、意思疎通の怠り。	・使用前の器具、用具の点検を十分に行う。 ・ストレッチ等を練習の前後に必ず行う。 ・軽い重量からウォーミングアップを行う。 ・正しいフォームを身につける。 ・使用する器具の安全確認を怠らない。 ・外したバーベルの整理整頓を行う。 ・利用者、補助員ともに使用上の決まりを守り、安全を最優先する。

(12) その他共通安全確認マニュアル

- ・地面に危険なものを置かない。
 - ・物置・部室の扉を閉め、整理整頓する。道具類は全て部室等に保管し、施錠すること。活動後の施錠を確認する。火気取り扱いは本校規定に順ずる。
 - ・ヒヤリハットが起きた場合は副校長に報告するとともに全教職員で共有する。
 - ・危険因子を取り除くための各部から出された要求は設置されるまで要望し続けることとする。具体的には、老朽化した「移動式防球フェンス」、「サッカー部東側の防球フェンス」「ナイター照明」設置と「メンテナンス費用」等である。
 - ・月初めには活動場所や用具等の安全点検を徹底し全職員で共有する。
- ※以上のことを全職員、全生徒に徹底する。